

## 1 学校教育目標

人間としての尊厳を確立し、世界にはばたく人となる国民の育成を目指し、生徒や地域の実態を踏まえ、次のように本校の教育目標を定める。

- 1 健康（体）      2 明るく楽しく（徳）      3 少しずつ賢くなる（知）

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権教育を中心に知・徳・体バランスよく教育し、生徒の自立を目指す学校</li> <li>○生徒・保護者・地域の信頼のもと、厳しく、温かく育む学校</li> <li>○教員が連携し、組織的に生徒一人一人の課題に取り組む学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○向上心をもち、互いに切磋琢磨しながら、自ら学習に取り組む生徒</li> <li>○自他の生命や人権を尊重する心や規範意識をもち、礼儀正しく品位のある生徒</li> <li>○健康に留意し、自らの体力向上を目指し、鍛える生徒</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育者としての使命感をもち、わかる授業を実践できる教師</li> <li>○生徒一人一人の気持ちに寄り添い「厳しく・温かく・わかる言葉」で指導できる教師</li> <li>○主体的かつ適切な判断のもと、組織的に生徒の知・徳・体を鍛えることができる教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状及び成果と課題>

－学校について－

〔成果〕

- 学校生活は授業を大切にすることを基本とし、落ち着いた、真面目な雰囲気の中で教育活動が行われている。
- 地域は協力的で、地域の学校として大切にされている。

〔課題〕

- 真面目な雰囲気が常に保たれる反面、不登校の生徒が多い。

－生徒について－

〔成果〕

- 明るく、さわやかで、気持ちの良い挨拶ができる。
- 集団での生活の仕方、マナーなどを理解し、他者への思いやりの心をもった生徒が多い。
- 学校行事に真剣に取り組むことができる生徒が多い。
- 部活動に熱心に参加しようとする生徒が多い。

〔課題〕

- 指示されれば出来るが、主体的にチャレンジし成果を上げる生徒が少ない。

－教職員について－

〔成果〕

- 生徒の個々の課題について熱心に取り組む教員が多い。
- 自己の校務について責任感を強くもって遂行できる。

〔課題〕

○授業改善を更に進める必要がある。

－保護者・地域について－

〔成果〕

○PTA、開かれた学校作り協議会、おやじの会、おやじの会 OB、近隣9自治会など地域や保護者が協力的で、コロナ禍においても、広い心で本校の学校教育に理解を示していただき、学校運営を円滑に進めることができた。

〔課題〕

○ごく一部ではあるが、学校の指導に理解いただくのに時間がかかる家庭があるので、親身になって寄り添い説明する必要がある

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	人権教育の推進	○	○	○	○	○
3	保護者・地域と連携した教育の推進	○	○	○	○	○

## 5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項		学力向上アクションプラン			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題		達成度 ◎○△●
学力向上 ・生徒の学習意欲を喚起し、主体的に学び、思考力・判断力・表現力を身に付ける指導をする。 ・基礎的・基本的な学力を充実させるための指導の工夫を行う。	・令和3年度区調査通過率65% ・年度末到達度確認テスト正答率65%	・令和3年度区調査達成率 1年国語 78.8% 数学 82.3% 英語 77.3% 2年国語 65.4% 数学 67.0% 英語 58.6% 3年国語 66.7% 数学 67.4% 英語 68.9%	全学年、全教科で通過率65%を目標とし、2年英語以外で、達成率65%を超えることができた。 中間層よりやや下の層の学力向上に重点を置いたが、学力の2極化が見られるようになったため、下位層にも更にてこ入れを図る必要がある。 主体的対話的で深い学びと、各種調査での学力向上の両立をすることが課題である。		◎

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続・改善	区学力調到達度確認テストの実施	全学年 全生徒 国語 数学 英語	2月 3月	全学年全生徒を対象に、国語科・数学科・英語科の授業時間及び学びタイムに到達度確認テストを実施し、生徒の自己採点と教員による解説の時間をとる。	採点をする	令和3年度の目標値正答率 65%を全員が超える。	1年(新2年) 正答率 国 77.6% 数 59.4% 英 58.5% 2年(新3年) 正答率 国 71.9% 数 58.1% 英 47.4%	・朝の学びタイムを活用し、抜き出し補充授業を実施する。 ・領域ごとの正答率を確認し、授業内で補習する。	○
2 継続・改善	朝の「学びタイム」 (必要に応じて個別取出指導)等補充指導	全生徒 国語 数学 英語 社会 理科 ※取り出し教室は、定期考査正答率30%未満の生徒	1月 2月 毎朝始業前 30分 (教科は学年で決める)	・朝の「学びタイム」 [指導体制]各学級担任と学年副担任(7~8名) [取り組み内容・ねらい・目的]毎朝、学習内容の復習・確認を行う。漢字の読み、書き・計算・英単語を中心 [使用教材]漢字・計算・英単語のプリント ・補充教室 [指導体制]各学級担任と学年副担任(7~8名) [使用教材]教員作成教材、定期考査、小テスト問題	成果確認テストの実施	定期考査で全教科30%以上の正答率	○学びタイムは有効に機能している。 ・落ち着いて自学自習する態度を身につけさせることができた。 ・個別の抜き出し授業を実施することができた。 ・コロナ休業中の不足授業を補うことができた。 ・各学習コンテストの取組を実施し、基礎学力の定着を図ることができた。	・一日の始まりを学びタイムとすることで、学習に取り組む気持ち、姿勢が整えられ大変有意義な時間となっている。 ・成績一覧表との関係から、定期考査で全生徒が高い正答率を示した場合、評価に不都合が生まれる点に矛盾を感じる。その点で全教科で30%以上の正答率を目指すことは、不適切な達成目標であった可能性がある。	◎

3 継続・改善	授業改善	全教員 全生徒 全教科	毎時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律の確立の徹底</li> <li>・切磋琢磨し高め合う集団作り指導</li> <li>・教科指導専門員の指導と成果発表授業</li> <li>・管理職による指導</li> <li>・教師相互による授業観察</li> <li>・生徒による授業評価</li> <li>・小中連携研修による</li> <li>・学力調査の分析</li> <li>・ICTを活用した指導</li> </ul>	区学力調査 通過率 生徒による 評価	通過率前年比 UP 主体的に学び わかる授業 85%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律は若手教員も含め、全ての教員の授業で徹底して守られている。</li> <li>・生徒意識調査で「主体的に取り組みわかる」と答えた生徒は84.4%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員相互の授業観察や生徒による授業評価は教員の励みになっている。</li> <li>・授業規律は徹底されており、本校の学校経営の肝となっているため、死守する。</li> </ul>	△
4 新規・改善	ICT機器の活用を進め 家庭での学習習慣の確立を図る。	全生徒 全教員 全教科	全授業 学活 家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Eライブラリー等ICT機器を活用し、家庭での活用、休校時の活用をする。</li> <li>・肯定的声かけについて工夫する。</li> <li>・「家庭学習ノート」「生活の記録」を配付し、記入させ毎日回収し、家庭学習の意欲を高める。</li> <li>・朝の学びタイムでは、自学自習の習慣を付けさせる。</li> </ul>	生徒意識調査	学習に意欲的に取り組む生徒 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習にしっかり取り組んでいる」と回答した生徒は84.4%であった。</li> <li>・ICT機器については授業観察においてもほとんどの教科で活用がなされている。</li> <li>・否定的に叱責する声かけはなくなり、励みになる声かけになっている。</li> <li>・担任教員だけでなく学年教員全員で家庭学習の点検を行っており、家庭学習の意欲喚起につながっていると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器が使用できない教室があり、不公平感が生まれる。</li> <li>・ICT担当教員の負担が大変大きくなりつつあるので、上手くICT支援員へと仕事分担を図る必要がある。</li> </ul>	○

重点的な取組事項－２		人権教育の推進			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
<p>人権意識の向上(いじめ防止を最重要課題とする) 思いやりの心を育てる 特別支援教育の視点に立った個別支援教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>週間年3回実施人権学習(講話、学級指導、全体で学ぶ時間などを取り入れ、多面的に実施する)</li> <li>道徳地区公開講座などで意識を変容させる。</li> </ul>	<p>・人権学習週間は年3回完全実施し、高度に人権問題について考えることができる生徒が増えている。 ハートフルイーク(生徒が先生を選ぶ面接)は実施できなかった。 ・道徳授業は完全実施した。 ・道徳地区公開講座は非公開で実施した。</p>	<p>・いじめ問題、生徒の人権にかかわることについては迅速に対応できた。 ・人権教育を丁寧に行い人権について真剣に考えることができる生徒が大部分である。</p>	◎	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
<p>人権意識の向上(いじめ防止)</p>	<p>人権学習週間で、生徒が人権についてよく考えていることがアンケートや感想文から読み取れる。(90%以上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒にきまりを守り、規律ある生活をさせることでいじめの芽を摘む。</li> <li>人権学習週間の年3回実施一校長講話、学級指導、全校で学ぶ時間などを取り入れた多面的な学習</li> <li>生徒自らが、いじめをはじめとする人権課題について考える取組の実施(いじめをテーマにした生徒会のパネルディスカッションなど)</li> <li>いじめ防止を含めた学校生活に関するアンケート実施</li> <li>いじめ防止対策員会を生活指導部会の中に設置し週1回確実に実行機能させる。</li> </ul>	<p>・善悪の判断が正しい生徒が多く、正しいことがとおる学校になっている。 ・人権学習週間は年間3週間にわたり実施されるが、教員も生徒も楽しみにしている。 高度な人権問題も理解し、正しい人権意識を身につけた生徒が大変多い。(生徒の感想等より) ・いじめ問題について適宜、いじめ防止対策委員会を開き、いじめ案件はあったものの、重大事態に進展せず収束することができた。 この委員会は未然防止にも役だった。 ・生徒意識調査によると「人権の学習によく取り組んでいる」と答えた生徒が91.1%であった。</p>	<p>・本校の教員は生徒の個々の課題を発見した際に大変濃密に生徒とかわり、しっかり解決する態度を学校風土として身につけている。 ・生徒に規範意識が育っている反面、校則を守ることの意義が理解できない保護者が現れている事実があるので、しっかり連携して子どもの精神的発達を促したい。</p>	◎

<p>思いやりの心を育てる (自尊感情とともに自己肯定感を高める)</p>	<p>学校・学年行事、道徳授業、地域行事の後の感想文を読み取り、思いやりの心や自尊感情、自己肯定感が高まったことを確認する。 (80%以上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団生活の仕方の指導を学校生活全般で行い、集団が気持ちよく生活できるようにする。</li> <li>・ 道徳教育推進教師を中心として効果的な道徳授業を進めるとともに、道徳授業地区公開講座でテーマとして教材作成をする。</li> <li>・ 生徒の委員会活動を通して自尊感情、自己肯定感を高める。 (学校・学年行事での係活動、挨拶運動、環境整備活動など)</li> <li>・ 地域清掃等や職場体験、地域行事などを通して自己肯定感を高める。</li> </ul>	<p>・ 中学校は集団での生活の仕方を学ぶ場所であることを、職員会・朝打合せ・生活指導部会等様々な場面で確認し、教員全体が切磋琢磨し、正しく伸びる生徒集団をつくるべく努力している。</p> <p>・ 道徳教育推進教師を中心に、各学年の道徳担当が、道徳授業を計画的、効果的に配置し授業を行い結果として、生徒の人権意識、自尊感情、自己肯定感は高まっている。</p> <p>・ 生徒会活動は、工夫改善を重ねているが、コロナ禍において思うように活動ができない。</p> <p>・ 地域清掃と職場体験はコロナの影響で中止としたが、残った行事の中で子どもたちが成長する姿を目の当たりにした。 それぞれの行事の大切さを改めて感じた。</p>	<p>・ 今年度コロナの影響があったが、運動会、学習展示発表会、2年魚沼自然教室、3年修学旅行は実施できた。その中での生徒の成長は著しいものがあった。</p> <p>反面実施できなかった行事の子どもたちへの影響は如何許りかと考える。</p> <p>・ 生徒の自己肯定感や自尊意識は年々高まっていることを感じるが、根拠不足の自尊意識、肯定感をもつ生徒が増えていないか不安である。</p>	<p>○</p>
---	--	---	---	--	----------

<p><b>重点的な取組事項－3</b> 保護者・地域と連携した教育の推進</p>				
<p><b>A</b> 今年度の成果目標</p>	<p>達成基準</p>	<p>実施結果</p>	<p>コメント・課題</p>	<p>達成度</p>
<p>地域の大人全体で地域で生活している生徒を育てるという意識を高め、生徒の社会性を育成する。</p>	<p>保護者・地域と連携した行事や教育活動のさらなる充実</p>	<p>校内ペンキ塗りのみ、地域、保護者と実施することができた。</p>	<p>地域と学校そして保護者が手を取り合って、地域の子どもを育てる風土を醸成したい。</p>	<p>△</p>
<p><b>B</b> 目標実現に向けた取組み</p>				

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域の教育力の活用 (学校から地域へ)	地域行事に参加する生徒が感想等で自信や満足感を感じ自分の住んでいる地域に愛着を感じている割合が参加者の90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の歴史・文化・伝統の学習</li> <li>生徒の地域行事への参加、発表</li> <li>地域掲示板や学校だより、発行ホームページによる教育活動の周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は新型コロナウイルス感染症感染防止のため実施せず。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒意識調査では「地域に愛着を感じている」「地域の行事があれば参加したい」生徒がそれぞれ60%を超えており、コロナ禍収束後この意識を更に発展させる。</li> </ul>	
地域の教育力の活用 (保護者、地域から学校へ)	生徒の感想文などにより、保護者や地域の方との協働について感謝の気持ちが表れ、意欲の向上が見られる割合が参加者の90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の奉仕活動など(毎日の「朝の挨拶運動」の実施</li> <li>進路指導における3年生全員面接の指導協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は新型コロナウイルス感染症感染防止のため実施せず。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同上</li> </ul>	

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 学力向上アクションプランについて

##### 【課題】

区学力調査テストの結果は正答率が1年 国語 73.3% 数学 74.6% 英語 86.1% 2年 国語 68.0% 数学 55.3% 英語 62.0%  
3年 国語 73.5% 数学 57.8% 英語%

1年の国語では、一般的に大きな課題は見られない。

2年の国語では、基礎・・読み、漢字の書き、文法 応用・・作文に課題が見られた。

3年の国語では、一般的に大きな課題は見られない。

1年の数学では、一般的に大きな課題は見られない。

2年の数学では、基礎・・図形、方程式にやや課題が見られた。

3年の数学では、基礎・・確率にやや課題が見られた。

1年の英語では、一般的に大きな課題は見られない。

2年の英語では、一般的に英語長文の読み、記述式の設問に課題が見られた。

3年の英語では、一般的に大きな課題は見られない。

##### 【対策】

各学年、各教科で課題を分析、把握し、3月の授業及び新年度の授業で授業改善・補習を行う。

また、朝の学びタイムを活用し、未定着である生徒を選出し、取り出し特別授業を行う。 放課後の補習授業を行う。

#### <成果>

- 学校生活全ての場面で、集団生活力向上の指導（良好な生活習慣の確立・学校生活きまり遵守・授業規律遵守の徹底・集団の中での思いやりの大切さ）等を指導し、集団生活力を高め、全ての生徒が学校生活において真面目にかつ、思いやりの心を持ち、互いに学び合い、高め合うべく活動している。

結果として生徒が気持ちよく学校生活を送り、授業規律を守り積極的に授業に参加している。授業中寝ている生徒も皆無であり本年度の調査では、達成率で目標とした65%を全学年で9教科のうち、8教科で超えることができた。

- 集団生活力向上とともに、年間3回の人権学習週間を中心に学習を進めた。特に第2回人権学習習慣においては、生徒がパネルディスカッションを行い、生徒が主体的に心の成長の推進を図り、生命の大切さを理解し、いじめを許さないという意識を向上させることができた。

生徒たちに蒲原中学校は、人権についてしっかり学ぶ学校であるという意識が根付いてきた。

高い人権意識をもつことができる生徒が増えている。

- 地域関係者やPTA、おやじの会、おやじの会OB、関係9自治会の方々が大変協力的で、コロナ禍で中止や変更が多かった教育活動について、広い心でご理解いただき、学校の教育活動を支えていただいたため、混乱なく学校運営をすることができた。

連携小学校でも、地域の中学校へスムーズに進めるような配慮を、学校生活の様々な場面で行っていただき感謝している。

<来年度に向けた課題>

- 主体的・対話的で深い学び”が区学力調査の結果につながるよう授業改善を図る。
- 「いじめ」をはじめとする人権学習が定着しており、来年度以降もこれを確実に継続させることが課題である。

<解決の方向性>

- 自分で考え、学び合い、教え合う授業を取り入れ、更に、学力定着の低い生徒には学びタイム等を活用し、取り出し授業を行う。
- 毎日の職員朝会、週1回の企画会・生活指導部会・特別支援教育校内委員会、適宜開くいじめ防止対策委員会で協議を効果的に行い、教員の人権意識も併せて磨き上げるようにする。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

保護者の皆様には、コロナ禍の本年度においても、生徒の活躍、教員の頑張りを見守りいただきありがとうございました。

教育にはこれが絶対1番という方法は存在しませんので、お子様の教育に当たっては保護者の皆様と教員が手を取り合い、一致団結した方向性をもって指導に当たる必要があります。思春期を迎え難しいことも多いかと思いますが、今後とも協力して、お子様の良き道しるべになりたいと思います。

地域関係9自治会、おやじの会、おやじの会OB会の方々には、今年度も蒲原中の応援をしていただきありがとうございました。また新型コロナウイルスが収束しましたら、地域の行事へも本校生徒を温かく迎えてくださるようお願いします。

本校は教職員が更に一致団結し、保護者・地域とともに生徒の自立を目指し、生徒達を「厳しく、温かく、わかる言葉で」導き、社会に役立ち世界にはばたく人間を育てる学校でありたいと思います。

これからも皆様方のご指導、ご協力をお願いいたします。